

平成 17 年度
アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会

「アル・ネット」 第 13 回学術研修会(宿泊研修)

さまざまな行き詰まり

～回復途中における 新たな苦勞との出会い と さらなる前進～



日程 : 平成 17 年 11 月 26 日(土)・27 日(日)
会場 : ホテル ノースランド帯広
〒080 0012 帯広市西 2 条南 13 丁目 1 番地 0155 24 1234
主催 : 「アル・ネット」 アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会
後援 : 北海道・十勝医師会(未定)・帯広医師会(未定)
大江病院・道立緑ヶ丘病院・音更りハビリテーションセンター

研修会プログラム

第1日 11月26日(土)

1. 受付 13:30 ~ 14:00
2. 開会式 14:00 ~ 14:10
3. 基調講演 14:10 ~ 14:55

「アルコール依存とわたし」

長屋敏男(当事者) (遠軽さわやか共同作業所)

当事者の視点からアルコール依存症についてお話をうかがいたいと思います。

臨床の現場では、しばしば専門家 当事者間でニーズがかみ合わないことがあります。それは、病気を急性期・慢性期(回復期・生活期)に分けて考えますと、特に慢性期においてよく見られることと思います。例えば、回復や治癒をどのように捉えるかなど、専門家-患者関係の中で必ずしも十分な一致を見ていない場合も多いのではないのでしょうか？

良質な医療は当事者ニーズの正確な把握から始まります。

本当の当事者ニーズはどこにあるのか、現場はそのニーズにどれほど応えることができるのか、あるいはできていないのか、これからの医療(アルコール医療、ネットワーク医療)は当事者ニーズに応えるべく、どういった方向性に向かっているのか、今後の課題は何か、といったイメージを膨らませて頂き、次のシンポジウムへと進んでいきたいと思います。

休憩 14:55 ~ 15:05

4. シンポジウム 15:05 ~ 16:00

座長: 白坂 知信(医師) (医療法人北仁会いしばし病院)

「関わりの行き詰まり」

重村 早苗(看護師) (十勝勤労者医療協会帯広病院)

「内科」「看護師」の視点から見えてくる関わりの難しさと今後の課題

佐藤氏(当事者) (十勝・ひまわりグループ)

「当事者」だからこそできること、できないこと

梶浦 章弘(看護師) (医療法人北仁会いしばし病院)

「専門病棟看護師」の視点から見えてくるニーズとできること、できないこと

門屋 充郎(精神保健福祉士) (帯広ケア・センター)

「精神保健福祉士」の視点と「帯広ケア・センター」での活動を通して

このシンポジウムでは、当事者の回復を支援する立場で活躍する4人のシンポジスト(専門家・当事者)から、「関わり」を中心にお話をうかがいたいと思います。

当事者との「関わり」の中から見えてくるさまざまなニーズと、関わりの現状、今後の課題について発表して頂きます。当事者を回復へと導く上で、果たしてどのような困難や課題が見えてくるでしょうか？

5. ディスカッション 16:00 ~ 16:50

司会: 芦澤 健(医師) (医療法人北仁会旭山病院)

テーブルディスカッション (10分)

全体ディスカッション (40分)

基調講演、シンポジウムで連想や空想を膨らませて頂いた上で、「関わりの行き詰まり」についてディスカッションしていきます。まずは各テーブルで感想や意見、疑問の交換をして、次にフロア全体でのディスカッションへと進行していきます。

6. 総括 16:50 ~ 17:00
山家 研司(医師)(医療法人北仁会旭山病院)
7. 懇談会(夕食つき) & 夜間集会 自由討論 18:00 ~ 23:00
アルコール依存症の基礎知識と相談コーナーを準備する予定ですので、皆様の御参加をお待ち申し上げます。

第2日 11月27日(日)

1. シンポジウム 9:00 ~ 10:00

座長: 齋藤 利和(医師)(札幌医科大学医学部神経精神医学講座)

「ネットワークの行き詰まり」

小玉 光子(保健師)(北海道十勝保健福祉事務所保健福祉部子ども・保健推進課)

公に寄せられる相談への対応、各種医療機関との連携の現状と、今後の課題

嶋田 進一郎(医師)(地域医療支援病院北見赤十字病院)

総合病院精神科とネットワーク(精神医療と精神保健福祉の最前線)

佐藤 友紀(医療保健福祉士)(地域医療支援病院北見赤十字病院)

新たなネットワークの構築(オホーツク児童・思春期研究会の立ち上げ)

樋口 進(医師)(独立行政法人国立病院機構 久里浜アルコール症センター)

久里浜アルコール症センターの位置づけと期待されている役割

このシンポジウムでは、当事者の回復を支援する立場で活躍する4人のシンポジスト(専門家・当事者)から、「ネットワーク」を中心にお話をうかがいたいと思います。

当事者を取り巻く「ネットワーク」の現状と今後の課題について発表して頂きます。当事者を回復へと導く上で、どのような方向性でネットワークの成長が望まれるのでしょうか？

- 休憩 10:00 ~ 10:10

2. ディスカッション 10:10 ~ 11:20

司会: 田辺 等(医師)(北海道立精神保健福祉センター)

テーブルディスカッション (20分)

全体ディスカッション (60分)

基調講演、シンポジウムで連想や空想を膨らませて頂いた上で、「ネットワークの行き詰まり」についてディスカッションしていきます。まずは各テーブルで感想や意見、疑問の交換をして、次にフロア全体でのディスカッションへと進行していきます。

3. 総括 11:20 ~ 11:40
川村 敏明(医師)(総合病院浦河赤十字病院)
4. 総会 11:40 ~ 11:50
5. 閉会式 11:50 ~ 12:00

「アル・ネット」 第 13 回学術研修会(宿泊研修)

さまざまな行き詰まり

～回復途中における 新たな苦勞との出会い と さらなる前進～

近年、医療全般への国民の関心は、各種メディアを通じて急速に高まっています。国民が自由や権利を主張したくなる背景には、将来への漠然とした不安を感じずにはいられない、現在の不安定な社会情勢があるのでしょう。

急性期の疾患に対する医療技術の進歩は、少し乱暴な言い方をすれば「治るか、治らないか」という任せ医療から、「どのような方法で治るか」と自ら思い悩み選択する医療へとシフトさせました。

慢性期の疾患については、「どのような方法で治るか？」という問題以前に、「治るとはどういうことか？」そういった根本的な問いかけに、折り合いをつけながら生きていかなければなりません。疾患そのものが急性期の疾患のように完治したり、症状が完全に消退したりすることはなく、持病、後遺症、あるいは永続的体質変化といった形で、半永久的に生活の中に組み込まれていきます。

医療だけでは良くならない、自分だけでも良くならない、家族だけ頑張っても良くならない。その一方で、二次的・三次的に派生する様々な生きにくさをも抱えながら、どのような形で地域生活に参加できるのか？

私たち「アル・ネット」は、病者と周りで関わる者全てを救うキーワードが「コミュニケーション」であり、そしてひとつひとつの関係性がつながり広がった形がネットワークであり、それこそが回復を目指す上で最も大切なものであるとする立場に立っています。「アル・ネット」の研修会は、教える人、教えられる人という研修会ではなく、それぞれの立場から現場での問題を持ち寄り、それらを共有することで、明日への元気を見出ししていく場であることを目指しています。

第 11 回研修会ではそれぞれの「困った」を考え、その輪郭を少しくっきりさせました。第 12 回研修会ではそれをさらに一歩進めて「今、出来ること」について考え、明日への臨床につなげました。今回第 13 回研修会では、それぞれの立場からの「行き詰まり」を再確認し、トライアルアンドエラーの中で更なる希望を見出せる会にしていきたいと思えます。

今年の研修会は 2 日も全員参加型とし、体験を共有することに特に焦点を当てたいと思えます。初日は「関わりについての行き詰まり」、2 日目は「ネットワークの行き詰まり」と題し、パネリストの先生方にはフランクに現場の実情と今後の課題について問題提起を促していただき、全員参加型での活発なディスカッションを目指していきたいと思えます。

第 13 回学術研修会実行委員会

委員長 桶田 昌平 「アル・ネット」 幹事

事務局 第 13 回学術研修会 事務局 (担当者/澤村・柴田)

080-0334 河東郡音更町緑が丘 1 道立緑ヶ丘病院附属音更リハビリテーションセンター

TEL: 0155-42-4166 FAX: 0155-42-4239

事務局 「アル・ネット」 事務局

064-0946 札幌市中央区双子山 4 丁目 3-33 医療法人北仁会旭山病院医局内

TEL: 011-641-7755 FAX: 011-631-5512

研修費

研修会・懇談会(夕食付)・宿泊(朝食付) 会員¥17,000/非会員¥18,000/当事者・家族・学生¥17,000

研修会・懇談会(夕食)のみ 会員¥8,500/非会員¥9,500/当事者・家族・学生¥8,500

研修会のみ 会員¥3,500/非会員¥4,500/当事者・家族・学生¥3,000